

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 11 月 10 日 (2005.11.10)

【公開番号】特開 2000-199584 (P2000-199584A)
 【公開日】平成 12 年 7 月 18 日 (2000.7.18)
 【出願番号】特願 平 11-22413
 【国際特許分類第 7 版】
 F 1 6 L 5/00
 【F I】
 F 1 6 L 5/00 S
 F 1 6 L 5/00 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 筒状の鞘管ガイドを、住宅の壁に対して斜めとなる姿勢にして、この鞘管ガイドの少なくとも一部を前記壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置孔内に配置し、この斜めの鞘管ガイドにその傾き方向に鞘管を通してこの鞘管を前記壁に対して途切れることなく斜めに貫通させるとともに、前記壁を貫通する配管を前記鞘管内に通して案内し、この配管を曲げることなく配設したことを特徴とする壁貫通配管の壁貫通構造。

【請求項 2】 住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置穴に嵌め込む筒部と、
この筒部の内側を閉じる閉塞部と、
この閉塞部と一体に形成されて斜めに突出して、前記壁を貫通する鞘管が途切れることなく通される筒状の鞘管ガイドと、
を具備したことを特徴とする壁貫通配管の壁通し具。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の壁通し具を使用し、その筒部を住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置孔内に配置して、前記壁通し具が備えた斜めの鞘管ガイドの少なくとも一部を前記設置孔内に配置し、この鞘管ガイドにその傾き方向に鞘管を通してこの鞘管を前記壁に対して途切れることなく斜めに貫通させるとともに、前記壁を貫通する配管を前記鞘管内に通して案内し、この配管を曲げることなく配設したことを特徴とする壁貫通配管の壁貫通構造。

【請求項 4】 住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置穴に嵌め込む筒部と、
この筒部の内側を閉じる閉塞部と、
この閉塞部と一体に形成されて斜めに突出して、前記壁を貫通する鞘管が挿入される筒状の鞘管ガイドと、
を具備し、

前記設置穴に嵌め込まれた前記筒部の鉛直方向に沿う幅が前記鞘管の外径より大きく形成され、前記鞘管ガイドが前記筒部の外側に位置して前記閉塞部の上部から斜め上方に向かって突出されたことを特徴とする壁貫通配管の壁通し具。

【請求項 5】 前記閉塞部が前記住宅の屋外に露出する前記筒部の一端部に設けられているとともに、前記筒部の他端部の下部側の縁部が設置穴内に位置し、前記筒部の他端

部のうち少なくとも上部側の外周に取付けられて前記壁の屋内側の面に接して固定されるフランジ部材を備えていることを特徴とする請求項 4 に記載の壁貫通配管の壁通し具。

【請求項 6】 前記筒部の一端部の外周にねじ溝が設けられ、このねじ溝に螺合して前記一端部に取付けられるとともに、前記壁を前記フランジ部材との間に挟んで前記壁に固定される他のフランジ部材を備えることを特徴とする請求項 5 に記載の壁貫通配管の壁通し具。

【請求項 7】 前記鞘管ガイドが屋外に突出されており、この鞘管ガイドの先端部に屋外の配管と前記鞘管ガイドから突出された前記配管とを連結する継手部を備え、この継手部が、前記鞘管ガイドの先端面に当接する鰐部を有しかつ前記両配管が連結される継手と、前記鞘管ガイドの先端部に螺合されて前記鰐部を前記鞘管ガイドの先端面に押圧する継手固定部材とを備えていることを特徴とする請求項 4 から 6 の内のいずれか一項に記載の壁貫通配管の壁通し具。

【請求項 8】 請求項 4 から 7 の内のいずれか一項に記載の壁通し具を使用し、その筒部を住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置孔内に配置して、前記壁通し具の鞘管ガイドを屋外側に突出させ、この鞘管ガイドに屋内側から前記鞘管を挿入させて、前記鞘管ガイドを起点として前記筒部内で前記鞘管を座屈変形しないように曲げて、この鞘管内に前記壁を貫通する配管を通したことを特徴とする壁貫通配管の壁貫通構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば一戸建住宅等の屋外に設置される給湯器等の屋外機器から延びる送液用の配管等を、屋外と屋内とを仕切る外壁等を貫通して配設するための壁貫通配管の壁貫通構造及び壁貫通配管の壁通し具に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

又、本発明が解決しようとする課題は、水漏れなどを起こした際にも屋内への浸水を防止できる壁貫通配管の壁通し具を得ることにある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

【課題を解決するための手段】

前記第 1 の課題を解決するために、請求項 1 の発明に係る壁貫通配管の壁貫通構造は、筒状の鞘管ガイドを、住宅の壁に対して斜めとなる姿勢にして、この鞘管ガイドの少なくとも一部を前記壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置孔内に配置し、この斜めの鞘管ガイドにその傾き方向に鞘管を通してこの鞘管を前記壁に対して途切れることなく斜めに貫通させるとともに、前記壁を貫通する配管を前記鞘管内に通して案内し、この配管を曲げることなく配設したことを特徴とするものである。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

同様に、前記第 1 の課題を解決するために、請求項 2 の発明に係る壁貫通配管の壁通し具は、住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置穴に嵌め込む筒部と、この筒部の内側を閉じる閉塞部と、この閉塞部と一体に形成されて斜めに突出して、前記壁を貫通する鞘管が途切れることなく通される筒状の鞘管ガイドと、を具備したことを特徴とするものである。

同様に、前記第 1 の課題を解決するために、請求項 3 の発明に係る壁貫通配管の壁貫通構造は、請求項 2 に記載の壁通し具を使用し、その筒部を住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置孔内に配置して、前記壁通し具が備えた斜めの鞘管ガイドの少なくとも一部を前記設置孔内に配置し、この鞘管ガイドにその傾き方向に鞘管を通してこの鞘管を前記壁に対して途切れることなく斜めに貫通させるとともに、前記壁を貫通する配管を前記鞘管内に通して案内し、この配管を曲げることなく配設したことを特徴とするものである。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 0 】

この発明の壁貫通配管の壁通し具及び壁貫通構造においては、まず、壁を貫通する設置穴に、この壁の一面側もしくは他面側から前記壁貫通配管の壁通し具を嵌め込み設置する。次に、前記他面側もしくは一面側から鞘管を鞘管ガイドに通すことにより壁を斜めに貫通させて配設する。最後に、配設し終わった鞘管の内部に配管を通すことにより、この配管を斜めにして壁に貫通させて、鞘管内を通して所定の場所まで配設する。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

この発明の壁貫通配管の壁通し具及び壁貫通構造では、その筒部の閉塞部に斜めの筒状の鞘管ガイドが設けられている。この鞘管ガイドに鞘管を通すことにより、鞘管を無理に曲げることなく壁に斜めに貫通させて、壁に沿って配設できる。したがって、例えば、外壁裏の狭い壁裏空間の内部にも無理なく配設できると共に、この鞘管の内部に通して案内させる配管も無理に曲げることなく屋内等へと配設できる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 2
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 1】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 3
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 4
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 3】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 5
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 4】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 6
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 5】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 7
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 6】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 8
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 7】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 2 9
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 8】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 0
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 1 9】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 1
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 0】
【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 2
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 1】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 3
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 4
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 3】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 5
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 4】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 6
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 5】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 7
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 6】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 8
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 7】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 3 9
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 8】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 4 0
【補正方法】 削除
【補正の内容】
【手続補正 2 9】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0 0 4 1
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【 0 0 4 1】

前記第 1 の課題を解決するために、請求項 4 の発明に係る壁貫通配管の壁通し具は、住

宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置穴に嵌め込む筒部と、この筒部の内側を閉じる閉塞部と、この閉塞部と一体に形成されて斜めに突出して、前記壁を貫通する鞘管が挿入される筒状の鞘管ガイドと、を具備し、前記設置穴に嵌め込まれた前記筒部の鉛直方向に沿う幅が前記鞘管の外径より大きく形成され、前記鞘管ガイドが前記筒部の外側に位置して前記閉塞部の上部から斜め上方に向かって突出されたことを特徴としたものである。

【手続補正 30】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

この請求項4の発明に係る壁貫通配管の壁通し具は、住宅の設置穴内に嵌め込まれた際に筒部の鉛直方向に沿った幅が、鞘管の外径より大きく形成されているので、鞘管が無理に折り曲げられて座屈変形を起さない広い空間を筒部に確保することができる。

【手続補正 31】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 32】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

さらに、この請求項4の発明に係る壁貫通配管の壁通し具を壁に設置するには、まず、設置穴に対し屋外側から筒部を嵌め込む。この際、筒部を閉塞部及び鞘管ガイドが屋外に露出するように嵌め込む。そして、屋内側より筒部及び鞘管ガイド内に向って鞘管及び配管を挿入する。鞘管ガイドから屋外に露出した鞘管及び配管の先端部に継手などを介して給湯器を接続する。このように、給湯器と、鞘管及び配管と、を互いに接続する継手が屋外に位置することとなる。このため、たとえ、この継手に水漏れが生じても屋内への浸水を防止することができる。

【手続補正 33】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

請求項4の発明においては、この発明に従属する請求項5の発明のように、前記閉塞部が前記住宅の屋外に露出する前記筒部の一端部に設けられているとともに、前記筒部の他端部の下部側の縁部が設置穴内に位置し、前記筒部の他端部のうち少なくとも上部側の外周に取付けられて前記壁の屋内側の面に接して固定されるフランジ部材を備えたとよい。

【手続補正 34】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

この請求項5の発明に係る壁貫通配管の壁通し具では、前記筒部の屋内側に位置する他

端部のうち鞘管ガイドが配されていない側の縁部が設置穴内に位置している。

【手続補正 35】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 36】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0050】

この請求項5の発明に係る壁通し具を壁に取付ける際には、閉塞部及び鞘管ガイドが屋外に露出するように、設置穴に対し屋外側から筒部を嵌め込んだ後、この筒部の他端部にフランジ部材を取付ける。フランジ部材は設置穴の穴縁に引掛った状態となる。このフランジ部材を壁にねじ止め等により固定する。このように、壁通し具は住宅の壁に取付けられる。

【手続補正 37】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

このため、壁通し具が壁などから不用意に外れることが防止される。したがって、配管の出し入れに拘わらず壁への鞘管の設置状況を確実に保持することができる。

又、請求項5の発明に従属する請求項6の発明に係る壁貫通配管の壁通し具は、前記筒部の一端部の外周にねじ溝が設けられ、このねじ溝に螺合して前記一端部に取付けられるとともに、前記壁を前記フランジ部材との間に挟んで前記壁に固定される他のフランジ部材を備えることを特徴とするものである。

又、請求項4から6の内のいずれか一項に記載の発明に従属する請求項7の発明に係る壁貫通配管の壁通し具は、前記鞘管ガイドが屋外に突出されており、この鞘管ガイドの先端部に屋外の配管と前記鞘管ガイドから突出された前記配管とを連結する継手部を備え、この継手部が、前記鞘管ガイドの先端面に当接する鍔部を有しかつ前記両配管が連結される継手と、前記鞘管ガイドの先端部に螺合されて前記鍔部を前記鞘管ガイドの先端面に押圧する継手固定部材とを備えていることを特徴とするものである。

又、請求項4から7の内のいずれか一項に記載の壁通し具を使用する壁貫通配管の壁貫通構造は、壁通し具の筒部を住宅の壁に対して直交する方向に沿って貫通する設置孔内に配置して、前記壁通し具の鞘管ガイドを屋外側に突出させ、この鞘管ガイドに屋内側から前記鞘管を挿入させて、前記鞘管ガイドを起点として前記筒部内で前記鞘管を座屈変形しないように曲げて、この鞘管内に前記壁を貫通する配管を通したことを特徴とするものである。

【手続補正 38】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

外壁2には予め前記第1、第2筒部8、17の大きさに合わせて設置穴3が、屋外側と屋内側とを連通して外壁2に対して直交する方向に沿って貫通して開けられている。まず、第1壁通し部材6を取付ける。第1壁通し部材6の第1筒部8を設置穴3の屋外側から

屋内側へ向かって、第1フランジ部10が設置穴3の屋外側縁部に引掛かって止まるまで嵌め込む。このとき、第1フランジ部10と外壁2の屋外側との隙間は、第1フランジ部10の壁側に設けられた止水パッキン14aによって隙間無く塞がれる。

【手続補正39】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

次に、壁通し具1を斜めに貫通して鞘管ガイド13に中間部が支持された鞘管5に対して、屋外より配管4を斜め上向きに挿入することによって、この配管4を鞘管5に沿わせて配設する。鞘管5は無理に折り曲げられることなく既に必要とされる所定の位置まで配設されているので、配管4は、無理に折り曲げられて座屈変形を起こすことなく鞘管5の内部を通して所定の位置まで案内される。鞘管5の配設及び固定作業の終了後に、図3に示すように、鞘管ガイド13の屋外側の開口部において、コーキング材28による止水処理を施して鞘管5と開口部との隙間を塞ぐ。この止水処理によって、鞘管ガイド13を通して屋外から屋内へ雨水等が浸入するおそれを極めて低くできる。なお、コーキング処理に代えて鞘管ガイド13と鞘管5との間にOリングを挟んでもよく、又、これら両止水処理を兼用してもよい。

【手続補正40】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0089

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0089】

以上説明した点以外の構成、及び配管4及び鞘管5の配設作業は第1実施形態の場合と同じであるので、図5～図7において第1実施形態と同一部分には同一符号を付してある。したがって、この第2実施形態の壁貫通配管の壁通し具1とこれを用いた壁貫通構造は、本発明が解決しようとする課題を解決できる。

【手続補正41】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0093

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0093】

以上説明した点以外の構成、外壁2への取付け作業の仕方、及び配管4及び鞘管5の配設作業は第1実施形態の場合と同じであり、図8において第1実施形態と同一部分には同一符号を付してある。したがって、この第3実施形態の壁貫通配管の壁通し具1とこれを用いた壁貫通構造は、本発明が解決しようとする課題を解決できる。

【手続補正42】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0210

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0210】

請求項2及び3に記載の発明に係る壁貫通配管の壁通し具及び壁通し構造によれば、その筒部の閉塞部に設けられた斜めの鞘管ガイドに鞘管を通して、壁に対して鞘管を斜めに貫通させることができ、それにより内部に配管が通される鞘管を無理に曲げることなく壁に沿わせて配設できるので、例えば狭い壁裏空間の内部に鞘管等を配設するのに有利であるとともに、この鞘管内に通される配管も無理に曲げることなく配設できる。

【手続補正 4 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 1

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 2

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 5

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 1 8】

請求項 4 及び 8 に記載の発明に係る壁貫通配管の壁通し具及び壁貫通構造によれば、住宅の鉛直方向に沿う前記筒部の幅が前記鞘管の外径より大きく形成されており、鞘管が無理に折り曲げられて座屈変形を起さない広い空間を筒部に確保できるので、鞘管を無理に曲げることなく壁を貫通させて壁に沿わせて配設することができる。また、鞘管が無理に曲げられることがないため、この鞘管内に容易に配管を通すことができる。

【手続補正 5 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 9

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 2 0】

さらに、請求項 7 に記載の発明に係る壁貫通配管の壁通し具によれば、鞘管ガイドから屋外に露出した鞘管及び配管の先端部に継手を介して給湯器を接続することができるので、たとえ、この継手に水漏れが生じても屋内への浸水を防止できる。

【手続補正 5 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 2 1】

請求項 6 に記載の発明に係る壁貫通配管の壁通し具によれば、請求項 5 に記載の壁通し具の効果に加え、前記筒部の屋内側に位置する他端部のうち鞘管ガイドが配されていない側の縁部が設置穴内に位置しているので、鞘管を無理に曲げることなく壁を貫通させて壁に沿わせて配設することがより容易にできる。また、鞘管が無理に曲げられないことがないため、この鞘管内に容易に配管を通すことができる。

【手続補正 5 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 2 2】

又、請求項 5 及び 6 に記載の発明に係る壁貫通配管の壁通し具によれば、フランジ部材を壁にねじ止め等することによって、壁に取付けることができる。このため、鞘管及び配管を鞘管ガイドに通す際等に加わる操作力を、フランジ部材に波及させて壁で分散して支持できる。このため、壁通し具が壁などから不用意に外れることが防止される。したがって、配管の出し入れに拘わらず壁への鞘管の設置状況を確実に保持することができる。

【手続補正 5 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明

【補正方法】変更

【補正の内容】

【符号の説明】

- 1 ... 壁貫通配管の壁通し具、
- 2 ... 外壁（壁）、
- 3 ... 設置穴、
- 4 ... 配管、
- 5 ... 鞘管、
- 6 ... 第 1 壁通し部材、
- 7 ... 第 2 壁通し部材、
- 8 ... 第 1 筒部（筒部）、
- 8 a ... 屋外側に露出する第 1 筒部の一端部
- 8 b ... 屋内側に露出する第 1 筒部の他端部
- 1 0 ... 第 1 フランジ部、
- 1 2 ... 閉塞部、

- 1 3 ... 鞘管ガイド、
- 1 3 a ... 鞘管ガイドの先端部、
- 1 3 b ... 鞘管ガイドの先端面、
- 3 2 ... 継手、
- 1 1 1 ... フランジ取付け部、
- 1 1 2 ... フランジ部材、
- 1 1 3 ... 凹溝、
- 1 1 5 ... ねじ、
- 1 1 6 ... 屋外側の配管、
- 1 1 7 ... 継手部、
- 1 1 8 ... 鞘管ガイドの先端部のねじ溝、
- 1 1 9 ... 継手固定部材、
- 1 2 0 ... 継手の鍔部、
- 1 2 1 ... 継手固定部材のねじ部、
- 1 3 0 ... 第2のフランジ部材、
- 1 3 1 ... 鞘管ガイドのねじ溝。